

読む医療 専門医が語る現代病気事情

がん検診を受けよう

【がん検診の意義】

わが国では3人に1人ががんで亡くなっています。がんの闘病に伴う苦痛や負担は、患者さんと支える家族に重くのしかかります。そこで国では、がんの死亡率を10年間で20%減少させることを目標に定め、5年以内にかん検診の受診率を現状の20%前後から50%に改善することを目指しています。がん検診は、そもそも、健康な人を対象に、有効性が検証された検査を行うことで早期発見につなげるものです。

【低い受診率】

がん検診は、民間の人間ドックや職場でのがん検診など様々ですが、国が推進するがん検診は、市区町村により

◇執筆者紹介 宮下正夫／日本医科大学消化器外科教授／日本医科大学千葉北総病院外科部長 医学博士／日本消化器外科学会指導医／日本消化器病学会指導医／日本



がん治療認定医機構認定医／消化器がんの早期発見と治療に広く活躍中。

先進国では最低レベルの受診率

■表 市区町村で行われるがん検診

がんの種類	検査の種類	対象年齢 (歳以上)
胃がん	胃レントゲン検査	40
大腸がん	便潜血検査	40
肺がん	胸部レントゲン検査+喀痰細胞診	40
乳がん	視触診+マンモグラフィ	40
子宮頸がん	子宮頸部擦過細胞診	20

か国中26位。1位のフィンランドはなんと84%です。子宮頸がん検診の受診率(20~69歳の女性)では、日本は25%で、27か国中25位です。米国は86%と極めて高い受診率です。上記のがんにおいては、日本の受診率は先進国の中では最低レベルなのです。

運営され、各医療機関で実施されます。OECD Health Data 2011の報告によると日本の乳がんと子宮頸がんの検診受診率は、他の先進国と比べると非常に低く、2009年の乳腺撮影を用いた乳がん検診の受診率(50~69歳の女性)は、日本は24%で29

対象年齢になったら誰でも定期健診受診を

ていますが、国と市区町村で行うがん検診では、費用対効果が最も高い検査を行う必要から有効性が確立している検査しか実施されません。また、検査に関わる有害事象の問題もあり、これらを総合的に評価した上で、現在は表のような検査が導入されています。

【がん年齢は全員検診を】

それでは、どのような人が検診を受けるべきでしょうか？がん家系の人、ヘビースモーカーは当然ですが、基本的には対象年齢の全員が該当します。既に何らかの理由で通院している人も原則的にはがん検診は必要です。実際に高血圧や糖尿病など特定の病気に気をとられて、がんの発見を怠ってしまったことがよくあります。このような場合に、がんが見つかるケースは稀ではありません。がん年齢とされる人たちの多くは複数の病気を抱えていて、その中のひとつががんである場合があるのです。進行しないと症状が出ないがんは、定期的ながん検診で早く見つけるのが一番です。早期に診断されれば簡単な治療法で治るがんも多いことを心に留めておくことが重要です。次回、がんの予防についてふれたいと思います。

【がん検診の項目】

人間ドックでは最新の検査が行われ